



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 27 年度 第 2 号
平成 27 年 5 月 1 日 (金) 発行
さいたま市立宮原中学校
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「昭和の日」に想う

校長 やました せいじ
山下 誠二

4月11日、土曜授業公開の際、一人の保護者の方が校長室を訪ねられました。「どうしましたか」との問いに、「校長先生、娘が進学した県立Y高校の入学式に出席しましたが、呼名の際に大きな声で返事していたのは、宮原中の5名だけでしたよ」とおっしゃいました。以前にも書かせていただきましたが、「ところかわっても」当たり前なのが当たり前のようにできている卒業生に感謝の限りです。

また、17日に関係小学校の校長先生や教頭先生等が宮原中に来られた時、つばさ小に新しく来られた井原校長先生が、「職員玄関はどこですか」と生徒に尋ねたら「僕が案内します」と玄関まで一緒についてきてくれたそうです。大変うれしく思いました。該当生徒は、遠慮なく校長室まで申し出てください。

さて、昭和64年1月7日に昭和天皇が崩御され平成になりました。それまで4月29日の「天皇誕生日」が、平成元年から「みどりの日」になり、平成19年から「昭和の日」になりました。私が子どもの頃は、昭和の真ただ中。生まれた年の昭和33年は、長嶋茂雄が巨人軍に入団、プロデビューを果たしました。また、東京タワーが完成した年です。テレビは白黒でリモコンなどは当然のことながらなく、足が生えていたのを覚えています。映るチャンネルは、1・3・5だけ。1がNHK、3が教育、5がRKK熊本放送のみでした。冷蔵庫は木製で、上の段に氷を入れ、その冷気で下の段の物を冷やしていました。洗濯機の脱水は、ローラーの間に洗濯物を挟んでハンドルを回し、水分を絞っていました。冬は、脱水が十分でないと、干した洗濯物が凍っていました。電話のない家も多く（我が家も私が中学3年の時に電話がやっと付いた）、家の電話は黒いダイヤル式でした。街中に公衆電話がたくさんあり、その公衆電話はほとんど赤でした。黄色や緑色、ピンクもありましたが、今はあまり見かけなくなりました。中学生は、校章が付いた学生帽で、夏場はそれに白いカバーをかけてかぶっていました。音楽はCDではなく、当然のことながらレコード。A面とB面があり、トラック（音の溝）に傷がつくと、音が飛びました。エアコンなどは夢また夢。いくら暑くても扇風機かうちわで涼をとっていました。夏、車は窓を全開にし、オート三輪という、三輪のトラックが土煙を上げて走っていました。コンビニやファストフードのお店なんてなく、バナナや桃は、よほどの高熱が出ないと食べられませんでした。



どれも、漫画の「サザエさん」や映画の「三丁目の夕日」のような光景でした。決して裕福ではありませんでしたが、人の温かい心を感じることができていたように思います。

“春の日や 昭和は 遠くなりにはけり”

